地域おこし協力隊のリアルライフ

左から、倉吉市役所観光交流課の木藤さん、地域おこし協力隊で関金温泉若女将の西河葉子さん、しゃあまけ笑会副会長の石谷さん。「無理せず、楽しく、できること」を合言葉に、行政・協力隊・地域住民それぞれの立場で地域活性化に尽力する。

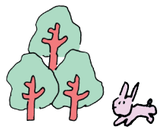
鳥取県倉吉市の「関金温泉」と、山梨県富士吉田市の「ハモニカ横丁」。
それぞれの地で活躍する地域おこし協力隊のお二人に
地域への熱い思いと活動について、お話をうかがいました。

文：森川和典（P.58 ～ 59）、松井さおり（P.60 ～ 61）　写真：小野友里恵（プレスカラー /P.58 ～ 59）、内山温那（P.60 ～ 61）
イラスト：中村隆

case 1

鳥取県倉吉市関金町　西河葉子さん

できることを少しずつ、「腹をくくって、たのしむ」



江戸時代には関所が置かれ、交通の要衝としてにぎわい、旅人の疲れを癒してきた関金温泉。人口減少や時代の変化にともない次第に活気がなくなってしまったこの地に、いま、当時のにぎわいを取り戻すべく地域を走りまわる女性がいる。地域おこし協力隊の西河葉子さんだ。2013年10月に開催した「セキガネ温泉手づくり文化祭」は、西河さんを中心に地域住民や行政もまき込むことで大成功をおさめた。このイベントを皮切りに、地域おこし協力隊・地域住民・行政、三者が手を取り合い、関金町を盛り立てる活動が続いている。

地域おこし協力隊制度を利用する以前、この地域がまず取り組んだのが、「関金温泉グランドデザイン検討会」の発足。関金温泉再興事業の基本骨格をつくることが目的だ。「回を重ねていくなかで、関金町活性化には温泉旅館と地域住民の連携が不可欠だと感じました」と語るのは、観光交流課の木藤さん。そこで「関金温泉若女将プロジェクト」として地域おこし協力隊を募集。京都府出身のIターン者・西河さんが関金温泉の若女将に就任することとなった。

西河さんは就任当初、〝地域と行政のギャップ〟を感じたという。「ギャップを埋めるために、とにかく多くの人の話を聞きました」

地域のことにもっとも詳しいのは、そこで生活をしている人たちだ。西河さんはいろんな人の想いを汲み取り、実現可能な範囲で地域活性する方法を提案しつづけた。そんな、地域と西河さんたちとのディスカッションから生まれたのが「セキガネ温泉手づくり文化祭」だ。地域内外の商店やアーティストなどをまき込み、当日は千人を超える来場者でにぎわったという。

西河さんと木藤さんは、「地域のよさを次世代に引き継ぐための土台づくりが必要」と口をそろえる。そのために継続して取り組んでいるのが「元老舗旅館活用プロジェクト」だ。「人と人がつながる仕組みづくり」「創造と交流の拠点づくり」をコンセプトに、かつては関金温泉の中心的温泉宿だった「温清楼（おんせいろう）」を再生させ、地域活性のシンボルにすることが目的だ。地域住民を中心とする組織「しゃあまけ笑会」が中心となり、改修作業とイベントを並行して行っている。

地域住民も、活動には大きな関心を寄せている。しゃあまけ笑会の副会長を務める石谷さんは、「手づくり文化祭をきっかけに、関金温泉復興のビジョンを地域のみんなが共有できました」と語る。続けて「西河さんは自分たちを元気づけてくれる存在」と断言。西河さんと地域住民たちは、すでに強固な絆で結ばれているのだ。

地域おこし協力隊を受け入れたはいいが、「協力隊員に事業を託したまま」「住民が地域おこしに対しておよび腰」などの問題を抱える自治体も少なくないという。しかし、この関金町に限り、グランドデザイン検討会から始まり、若女将プロジェクト、手づくり文化祭まで、一連の流れは「行政まかせ」「地域まかせ」の取り組みではないのが明らか。行政や地域の「なんとかしたい」という強い思いに加えて、西河さんの「腹をくくって、たのしむ」という信念が地域全体に伝播したのだろう。「自分たちの力を信じ、同じ目標に向かってチャレンジしていくことが、目標達成の近道だと信じています」と、西河さんは関金温泉街を見渡しながらうれしそうに語った。

浴衣姿の観光客が温泉街をそぞろ歩きし、商店や旅館が活気に満ちあふれ、街中に笑顔の花が咲く、そんな関金温泉の〝あるべき姿〟を取り戻すまで、あと少しだ。

（上）かつては10軒以上あった温泉宿がいまではわずか４軒に。（左）西日本有数の面積を誇るわさび田で採れるわさびはこの地の大事な資源だ。（右）「手づくり文化祭」では「温清楼」の露天風呂を足湯として来場者に開放。

本誌P.106に、西河さんが登場するイベントの情報があります！

西河さんへの 10 Questions！

関金温泉の若女将の西河葉子です。関金町活性化のヒントを求めて、地域のあちこちを動きまわっています！

Q おもな業務はなんですか？

人と人をつなぐ「温泉と町のコーディネーター」です。また、関金町のよい所を他地域にアピールしていきます。

Q お給料はいくらですか？お給料日はいつですか？

給料日は毎月21日で、給料は14万5000円。

Q 一日に何時間働いていますか？

一日での決まった労働時間はありませんが、「一週間で29時間」と決められています。地域の手伝いと仕事の区別が難しいときがありますね（笑）。

Q ほかの協力隊とのつながりはありますか？

ありません。もっとこの地域の人たちについて知りたいので、暇があれば町のどこかでいろんな人と話をしています。

Q 地域の方とのおもしろエピソードを教えてください。

変わった方法でおすそ分けをいただきます。車のサイドミラーに漬物がかかっていたり、タイヤのそばに野菜がおいてあることも（笑）。

Q 任期中に自分の力を存分に発揮するための心がまえは？

自分の力を信じて「腹をくくって、たのしむ」ことです！

Q 地域に入っていちばんうれしかったこと、いちばんつらかったことは？

「田舎のしがらみ」でやりたいことができないこともありますが、地域の方が積極的に協力していただけるのはうれしいです。

Q ズバリ！　充実度は何％ですか？

充実度200％です！　私の人生のなかでこれだけ思いきって何かができる時間は、ほかにはありません！

Q 任期が終わったあとの展望をお聞かせください。

野菜や水など、関金町が誇る資源をほかの地域へ発信していけるような仕事をしていきたいです。

Q 地域おこし協力隊予備軍へメッセージをお願いします。

自分ができることを見きわめ、３年間をその地域のために尽くす覚悟を持ってチャレンジしてください！